



卒業される皆様へ ～コロナ禍の一年を終えて！～

4月開講の予定が、年始早々のコロナ感染拡大により5、6月と順次延期し、9月開講となり、順調に進んでまいりましたが、第3波に襲われ本科では11月から午前中のみの講座として対応をさせて頂きました。

毎日のように報道されている専門家会議では、感染拡大を食い止めるために、徹底した「行動変容」の重要性を訴え、手洗いや身体的距離確保といった基本的な感染対策の実施、「3つの密」を徹底的に避ける、「人との接触を8割減らす」などの提案を重ねて呼びかけてこられました。

当カレッジでは教室の定員を半分に以下にして「3つの密を避け」、「体温測定」、「消毒」、皆様方には自己管理の徹底をして頂いたお陰で、一人の感染者も出すこと無く今日までこられました。

開講延期・本科の短縮授業(午前中のみ)で、教室手配や講師との調整など、クラス・アドバイザー、教務部、渉外部の皆さんには、大変なご心配とご苦勞をおかけしておりますが、この間に受講生の皆さまには節度ある対応を遵守いただき厚くお礼を申し上げます。

本年1月に入り、大阪府では高齢者の死亡が日本でワースト1、医療体制のひっ迫が日々報じられるようになり、第3波による2度目の緊急事態宣言が発出されるという事態に至り、止む無く休校させて頂きました。

生涯学習が不要不急のものでは無いことは勿論のこと、自粛によるフレイル(筋力低下)や鬱(うつ)状態に陥る方も多くおられることは、十分承知いたしておりますが、大阪府・北部各市・町の現状と吉村知事が毎日のように自粛をお願いされている姿をTVで見聞きして、我々シニア世代は言うに及ばず、現役(子や孫)世代が一日も早くコロナに打ち勝ち、普通の生活に戻れるようにとの思いから、緊急事態宣言期間の休校の決断をさせていただきました。

今後、ウイズ・コロナ時代に一番効果的なのは、自分の能力を高め磨いていくこと、さらに、能力を高めた人たちと、いかに良いネットワークを作り、互いに支援しあえる関係を築けるか、といったことを意識的に行っていく必要があると言われています。コロナ禍での新たな気付き、会えなくても繋がる、オンライン講座、クラスの定員のあり方、ズーム(Zoom)会議など多くのことを学ばせていただきました。また、地域との繋がりの重要性も改めて感じました。

当カレッジは、令和元年10月に大阪府の条例指定・令和2年3月に認定NPOの認証を取得し、地域の他団体との協同事業として令和3年5月より「子供たちの起業家体験講座」(キッズ・ベンチャー事業)を計画しています。シニア世代が、現役時代に培ってきた英知を孫世代に伝えていければと思っています。

1年を終えて再受講される方もおられますが、是非ともこの事業にも参画(ボランティア)して頂くことをお願いし、結びの言葉とさせていただきます。

「1年間 ご心配、ご不便をおかけしました事をお詫びすると共に、皆様のご協力に感謝致します！」

認定NPO法人 大阪府北部コミュニティカレッジ
理事長 猪谷義弘



クラスの活動紹介 ～コロナ禍の講座に思う！～

アクティブシニアをめざす科 -大阪府シルバーアドバイザー養成講座- 豊中教室

～ 新しい自分を発見 ～ 【担当 CA： 高山アケミ、吉水希代子】



退職後初めてアクションとして、この講座を多少の不安と大きな期待と関心をもって受講しました。不幸にもCOVID19ショックを受けて日程や内容も変更を余儀なくされ、9月からのスタートとなり、時間的には不十分だったかもしれませんが、熱心な講師の先生やCAの方々の協力、何より同じ受講者仲間の熱い「学ぶ意欲」に刺激を受けて、自分自身もたくさん学ぶことができた実感しています。

受講者のコミュニケーションの輪の広がりも大きな収穫でした。

コロナ禍で不自由な部分もありましたが、各グループでの学習成果発表会の準備も着実に進めている点は「アクティブシニア」のパワーそのものです。

これからも「新しい世界」に視野を広げて学んでいこうという意欲をもって自分なりに無理をしないで、「アクティブ」である歩みを続けていきたいと思っています。

最後にこの機会に出会えることのできた皆さん、本当に感謝！ ありがとうございます。【文：福原 寛】

美をめぐる～美術散歩 豊中教室

～ 一歩踏み込んで美とアートを探訪 ～ 【担当 CA： 山上田起子、岸本佳奈子】

直前に教室が変更となりバタバタしたものの、無事9月1日より8期「美をめぐる～美術散歩科」は始まりました。講義では小村先生の西洋美術の講義を中心に、門脇先生の日本美術、北川先生の浮世絵や越智先生の蘭学と興味深い講義ラインナップが続き、受講生は毎回熱心に耳を傾けています。

美術館巡りでは、あべのハルカス美術館の奇才の日本画、中之島香雪美術館の黒釉のやきもの、京セラ美術館の京都の絵画、松花堂美術館ではすてきなお庭を堪能させて頂きました。なかでも圧巻だったのは国立国際美術館でのロンドンナショナルギャラリー一展。今期で唯一ともいえる海外の美術館展であり、どの絵画も素晴らしく、皆さんの感激度・満足度は絶大でした。そして、この感動が得られたのは、何より小村先生による事前講義の賜物であったと確信しています。【文：CA 岸本佳奈子】



水彩を学ぶ科 高槻教室

～ 描く楽しさと感動を味わう ～ 【担当 CA： 村主正夫、上田琴恵】



昨年春はちょっとした風邪やなあ～とと思っていましたが、今や世界中に新型コロナが広がり、日々テレビ等の感染者数が気になっています。各学科においても意欲に溢れて受講されたのに、短縮授業等を強いられ、困惑されています。

水彩科では昨年度は45人を一つのクラスに受け入れていましたが、今年度は、午前、午後に分け、昼食時間を消毒タイムにあて、密をさけ、午前、午後の方に交代で入っていただき、部屋の換気も徹底してきました。

様々な勉強もしたのですが、皆さんとのコミュニケーションが全くとれない一年でした。CAとしては受講生とONCCの繋ぎでお手伝いすることが出来なかったと感じております。 見えない敵！ 収束は何時のことやら！

来年度は、普通の授業で先生と受講生が楽しく過ごされる日を持ちたいです。 【文：CA 村主正夫】

心を豊かにする音楽科 池田教室

～ レクチャーコンサートを楽しむ ～ 【担当 CA： 秋江礼子、笠井ひかり】

歌を聴くときは、フェイスマスク着用や歌手と生徒との距離を十分に取るなど万全の対策を取りながらの講座運営でした。講義では種々の楽器また声楽の専門家の先生方の講義、演奏を聴きました。また主な講師である松本先生の講義と「アンサンブル・サビーナ」による多様なジャンルの演奏を楽しく聴かせて頂きました。やはり複数の講師による種々の音楽紹介は興味深いものでした。

例年であれば「クラスのメンバーとの交流やコーラスをするなど、能動的な事も出来た」のにと残念に思うこともありましたが、この様な状況だからやむを得ません。

この受講を通して、このような暗い時期に心に潤いを与える音楽を楽しむのは欠かせない事だと言うことを、改めて再認識しました。【文：クラス代表 浅岡哲記】



西国街道の史跡探訪科 豊中教室

～ 北摂を中心に江戸時代の名所を探訪する ～ 【担当 CA： 佐藤敬一、田内幸夫、中野保子】



コロナの影響を受けて、8月27日にようやく開講し、変則日程で最初は講義、2日目ではオリエンテーションとなりました。参加者全員が最初に手指の消毒・体温測定の他、自己紹介では一人しゃべるとすぐにマイクの消毒と大忙しでした。

当科は、西国街道沿いの史跡やそれにまつわる人物に関する講義を受け、その場所を探訪するのが目的でした。探訪先では、その地の観光ガイドの方々にご案内頂き、詳しく学習することができました。

探訪先でも、最初に手指消毒、マスク着用でしたが、ガイドの方々もマスクにフェースガード、且つ密集を避けるため数人ずつに分散し、多くのガイドさんにお世話になりました。その結果、有岡城主の荒木村重、高槻城主の高山右近や尼崎ゆかりの近松門左衛門などを詳しく知り、有意義に講座を終了できました。【文：CA 田内幸夫】

ぶらっと散策 吹田教室

～ まち歩き・里山歩き ～ 【担当 CA： 岡村昇二、小山哲夫、中野保子】

私たちの科では、校外に出る「探訪」が主体なので、コロナウイルスの影響が強烈でした。

情勢が変わる毎に、行き先の変更を迫られ、それに伴ってCAが下見や外部との交渉のやり直しとなりました。

それも急なキャンセルには慌てました。

変更の要因は、博物館・美術館など見学施設の休館、まちのガイド組織の活動休止、時間短縮のため目的地変更、季節に合わない行き先変更、バスの定員削減など色々です。

地元ガイドに依頼は8市にしましたが、実施出来たのは1市だけでした。ガイドがなければCAが代行しましたが、地元ガイドさんのようにはできません。更に下見をしましたが実施されず、無駄足となったケースもたくさんありました。

コロナの早い退散を待ち望んでいます。【文 :CA 岡村昇二】



敗者から見た古代史 撰津教室

～ 敗者の視点から見る、歴史の裏側 ～ 【担当CA：黒木武紀】



4月開講の予定が延び延びになり、やっと9月開講の運びになった古代史教室、各班で活動テーマを決めて、その活動を通じて仲間づくりをしながら年度末にその成果を発表する楽しみな計画でした。コロナ禍でやむを得ない事情でしたが、11月30日からは、さらに午後の班活動も中止せざるを得なくなり不完全燃焼！受講生の皆さまにも私にとっても不本意な6カ月でした。

その間の講義内容や班活動は当初の計画通り、教室トピックスとしてブログに纏めています。各班は年間を振り返って自主的に工夫して独自の内容の発表になりますが、コ

ロナに一日も早く解放されて、「終わりよければ全てよし」となりたいと祈念しています。【文 :CA 黒木武紀】

争乱と人物からの日本史 豊中教室

～ 中世・近世史 ～ 【担当CA：廣瀬雅人、清水誠一】

9月より新学期が始まりました。振り返れば、コロナに明け、暮れた5カ月間でした。毎回授業開始前が大変で、座席表の貼り出し、机・椅子の設営、資料配布、出席確認と短時間で受講生にサポート頂きながら慌ただしい時間を過ごしました。

CAとして最も意を砕いたのは、欠席者の確定作業でした。教務部から「その日の内に欠席者を報告せよ」との厳命あり！当初 班長と班員とのコミュニケーションが上手く行かず、報告漏れが散見されたのを機に、各班で午後のクラスミーティングの貴重な時間を割き、連絡方法の再確認を徹底してもらい、連絡漏れは激減しました。

こんな困難な状況にも関わらず、受講生の勉強意欲が全く衰えなかったことがせめてもの救いで、「緊急事態宣言」の再発出後も、「引き続き授業を聞きたい」という声が大変多かったことに驚き、心底感心しました。【文 :CA 清水誠一】



新・日本の近代史 茨木教室

～ 新しい視点で日本の近代史を学ぶ ～ 【担当CA：高橋俊之、藤原清子】



当科は、コロナ感染対策を遵守する中で、9月2日 福祉文化会館で始まりました。クラス運営に必要な役員・班体制も確定し、順調に午後の活動も動き出したのですが…その後も感染拡大の勢いは止まらず、11月25日の授業からは午後の活動は原則中止になりました。行事委員会が企画した見学会やルーム講座も実施直前でキャンセルになりました。

今、振り返ってみると、受講生の皆さんの徹底した感染対策もあって、感染者を一人も出さなかったことが何より喜ばしいことであり、CAとしても安堵しています。

一方で、ONCCの活動理念である「仲間づくり」のお手伝いが十分できなかったことを残念に思うし、猛省もしています。「明けぬ夜」はなく、「やまない雨」もありません。

近々、緊急事態宣言が解除され皆さんと再会できることを祈念しています。【文 :CA 高橋俊之/藤原清子】

水彩と油彩を学ぶ科 (2年目 油彩) 吹田教室

～ 楽しみながら基礎から学ぶ ～ 【担当CA：多田文男、大西アサ子】

当科は一昨年からの2年コース。1年目は水彩で土方先生の指導の下、絵を描く楽しさを感じ充実した年でした。2年目に入り、コロナ禍の影響で授業は9月からの午前中となりましたが、フェイスシールドやマスク着用で油彩画の技法を学びました。

実際に描いての実技指導は好評です。秋には密を避け、大阪中之島、京都嵐山、箕面公園へのスケッチ・校外学習にも出かけました。

教室での授業は、人物デッサンから始まります。お互いがモデルです。マスク姿の人物画が増えました。



スライドを使っの絵画鑑賞、基本色を用いての色彩理論や構図、実技と充実の半日を過ごしました。自粛中、各々自宅で描いた作品を持参、指導をも受けました。再び緊急事態宣言で暫くは休講、趣味を共有し、好きな油彩画を続けます。【文 :CA 多田文男】

特別短期講座 A 総合文化を学ぶ科 豊中教室

～ 懐徳堂記念会協力講座 ～ 【担当CA : 山田豊実、田中美千子】



2020年9月に開講する時、最初に思ったことは緊急連絡体制作りでした。

コロナ等による突然の休講の連絡を各班長から班のメンバーに電話連絡してもらうにも、特別短期講座は午後の班活動はないので、メンバー相互の顔と名前を覚え易いように講義時の座席は班ごとに固まって座ってもらうようにし、毎回班の座席をローテーションしました。しかし、中ホール以外の会場では、市松模様に座ると座席数に余裕がなく、毎回各班の出席予定者の座席を割り振って、班の境界線が複雑な座席表を作成するのに時間と労力がかかりました。

また、総合文化を学ぶ科のHPを作成し、補助的に情報連絡するとともに、ブログに受講生からの投稿等も載せました。毎回の講義内容は受講生にも好評で、熱心に聴講していたと思います。【文 :山田豊実】

特別短期講座 B はじめての日本書紀と万葉集 茨木教室

～ 梅花女子大学提携講座 ～ 【担当CA : 久慈良政】

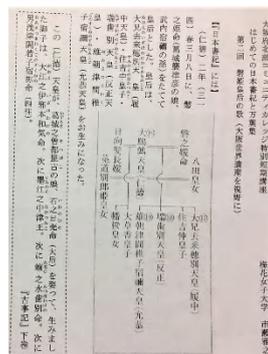
新型コロナ蔓延により何かと制限が多い1年でした。講義開始が9月にずれ込んだものの、受講生の協力、教務部スタッフの応援に助けられ、何とか講座終了迄漕ぎつけ、最後まで頑張っています。

受講生の「今日の一言」で「マスクを外してお話して下さると嬉しいです」との意見に対し先生は、マスクからマウスシールドに替えて講義をして下さいました。

お話が聞き易くなり、講義内容の理解度が深まりました。

講義全般に関する受講生の感想は、「解かり難かった古代史を易しく解説して頂き、初めて知ったことが多く、改めて興味が持てた」との意見が多数ありました。【文 :CA 久慈良政】

(写真は講義で使用された、「磐姫」講座のテキストです)



特別短期講座 C 三国志を楽しむ科 豊中教室

～ 中国文学・中国史 ～ 【担当CA : 吉田優子】

2020年は大変な年になりました。予想もしていなかったコロナ禍で「三国志を楽しむ科」は9月開講、本来月1回の講座が月2回、3回となり、1クラス47名を2つに分け午前と午後に実施したり、また別の大きな会場に移したりして、何とか8回まで進めることが出来ました。受講生の皆様にはマスク、検温、消毒を徹底して頂きましたが、換気や照明設備が必ずしも快適でない場合があり、ご不便をお掛けしてしまいました。



しかし、竹内真彦先生の情熱はどの会場でも炸裂し、ボリュームたっぷりの資料と映画(DVD)によって三国志への興味が益々増したことでしょ。

三国志の登場人物は多種多様で面白く、10回の講義では物足りなく思った方も多いのではないのでしょうか。吉川英治の小説だけでなく、今はアニメ、映画、ゲーム?でも人気の題材です。色々な方向から三国志を見直してみましょ。

特別短期講座 DE 再発見!なんでも見てやろう 現地集合

～ 見て聞いて歩いて学ぶ ～ 【担当CA : 廣瀬雅人、秋江礼子、山上田起子】

「再発見!」は現地集合、現地解散が原則です。昨年1月頃から訪問先の選定・折衝を経て全11回の企画をしました。

ところが最初の4月のオリエンテーションで年間の訪問先や確認事項・注意事項の説明会が中止になり、季節感も含めて全体の訪問先の変更やバス旅行の断り等 混乱の中9月に山本能楽堂が初めての訪問先になりました。多数の受講生希望者が有り抽選で落選の方もいた中で、バスを使っのミホ・ミュージアムの中止は残念との声がありました。当初の10回の訪問先のうち5か所変更しました。残りが予定通りに開催できることを希望しています。【文 :CA 廣瀬雅人】



編集後記 : 今年度は、コロナに振り回された1年でしたが、各クラスではCA、受講生の皆さんが互いに知恵を出し、協力してコロナ対策に努めて頂いたおかげで、本カレッジからは、感染者を出すことなく、講座終了目前となりました。

編集している今も緊急事態宣言が延長され、コロナの終息はまだ先になりそうです。皆様には、引き続きご自愛いただき、一日も早くコロナを終息に導き、晴れやかな気持ちで、カレッジライフを満喫したいものです。(浜)